

# 令和4年度 土浦日本大学高等学校通信制課程自己評価結果

本校の目指す学校像	日本大学の建学の精神を礎とし、生徒一人一人の夢の実現に向けた努力へのサポートを目指しています。 (1) 次の時代の先駆者となるべく目標と覚悟を持つ生徒を育成します。 (2) 自ら学び、自ら考え、自ら道を開いていくことができるように努めます。
-----------	--

本校の特徴および課題	本校は、日本最大級の規模を誇る総合大学、「日本大学」の付属高校であるという安定した基礎の上に、生徒の自主性を尊重しつつ、一人一人をしっかりとサポートしていきます。土浦日本大学学園全体で、それぞれの生徒に合った学習の場を提供し、進路や将来を見据えての悩みなどにカウンセリングを中心として、一人一人に応じた心理支援にも取り組みます。日本大学付属校のメリットを活かした進学指導に努め、生徒一人一人に適した進路指導に取り組みます。
------------	---

令和4年度取組結果	通信制課程開校2年目で、入学生15名、第2学年16名、第3学年10名の41名で新年度をスタートした。6月から転校生、転籍生があり、年度末には77名の在籍となった。本年度の卒業生は14名で、日本大学へは松戸歯学部1名、経済学部1名、生物資源学部2名、芸術学部1名の計5名が進学している。また、茨城大学工学部に1名が合格した。その他、私立大学7大学や専門学校3校に合格している。 生徒一人一人のニーズに適したコース（進学、通学、スポーツ・芸術、一般）選択により、個々の夢の実現に向け、達成できる体制を整えている。
-----------	---

目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況	A：取組目標が達成された B：目標はおおむね達成された C：課題を多く残している D：成果が出ていない
-----------------------	--

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育活動 (教務)	①目標の設定について	生徒一人一人の進路目標に即した学習指導、ICTを活用した学習提供。日本大学推薦入試に向けた模試の実施。	A
	②活動の実際について	シラバスを作成し、生徒の学習ベースが保たれるように努めた。	A
	③活動の点検について	生徒の中に学習ベースが保たれずに、レポートの作成・提出が遅れる状況が散見した。遅れた背景を追求し、保護者との連携をさらに深めた取組が必要である。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教科指導 (教務)	①目標の設定について	新学習指導要領に即した新カリキュラムの実践を推進する。	A
	②活動の実際について	新学習指導要領・大学入学共通テストに即したカリキュラムを実践し、生徒一人一人の希望進路に対応できるように、コース毎に取り組んだ。	A
	③活動の点検について	新学習指導要領に対応するカリキュラムが完成し、新1年生から実践に移行した。実践しながら進捗状況を振り返り、年度の途中であっても改善を目指した。また、各コースの提示用カリキュラムも準備が整った。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
学校生活への配慮 (生徒指導)	①目標の設定について	生徒一人一人の生活習慣や心身の状況を踏まえた生徒指導を実践する。登下校時には、教職員から積極的に声掛けをする。	A
	②活動の実際について	生徒一人一人が様々な悩みを抱えているため、背景を踏まえた生徒指導が必要である。特に、心因的な課題については、教職員全員の共通理解を図りながら対応に望む必要がある。また、登下校においては積極的に教職員から声掛けを行い、生徒と良好な関係が構築できるように努めた。	A
	③活動の点検について	教職員が生徒一人一人の生活習慣や心身の状況を把握したうえで、指導に活かすことができた。また、教職員の登下校時の声掛けは、生徒との信頼関係構築にとって素晴らしい効果があったと考える。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
進路指導	①目標の設定について	生徒一人一人の希望進路に即した進路指導を徹底する。日本大学付属高等学校等基礎学力到達度テストへの適切な指導に取り組む。大学進学のための推薦書、調査書の適切な作成や面接指導・論文指導を推進する。日本大学出張講義への参加をサポートする。	A
	②活動の実際について	生徒一人一人の希望進路に即した進路指導が教職員全員の共通理解のもと展開された。	A
	③活動の点検について	生徒一人一人の希望進路に即した指導により、素晴らしい進路を達成できた。日本大学には基礎学力到達度テストを活用して4名が合格し、特別推薦で芸術学部1名が合格した。また、茨城大学工学部に1名が合格した。その他、私立7大学や専門学校3校に合格している。 日本大学出張講義へ数名が参加者した。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育相談	①目標の設定について	生徒、保護者からの教育相談に適宜対応する。	A
	②活動の実際について	生徒、保護者からの教育相談を適宜受けられる体制を整え、カウンセラー、全日制の教育相談部との連携を図る。	A
	③活動の点検について	教育相談体制を構築しつつ、希望者にはリモート相談も活用するなど、適宜対応することができた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
いじめ防止対策	①目標の設定について	本校で掲げた「いじめ防止基本方針」に示された『未然防止』『早期発見』『適切な対応』『再発防止』の各取組に対するの共通理解を深め、いじめ根絶を目指す。	A
	②活動の実際について	生徒の交流がほとんどないため、『未然防止』に努めることに重点を置いて指導した。	A
	③活動の点検について	今後、生徒の増加が見込まれ、『未然防止』だけではなく、『早期発見』、『適切な対応』、『再発防止』の3項目の取組が重要になると考えられる。教職員の共通理解、カウンセラーとの連携体制の構築を推進する。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
広報 (情報入試)	①目標の設定について	年度当初より広報活動の充実を目指して、県内全中学校・高等学校、千葉県隣接地域の中学・高校、栃木県隣接地域の中学・高校への広報活動を実施する。 茨城県通信制課程等連絡協議会への加入。私学フェア等への参加。ホームページのリニューアル。学校案内のリニューアル。新聞広告への掲載等に取り組む。	A
	②活動の実際について	年間を通して広報活動を展開した。中学校、高等学校への訪問を通して広報の充実を図った。茨城県通信制課程等連絡協議会における情報収集、通信制相談会へ参加や私学フェア等へも参加して、生徒保護者へ接するなど、認知度アップに努めた。ホームページの更新や、学校案内のリニューアルを展開した。また、新聞広告への生徒募集広告を掲載した。	B
	③活動の点検について	年間を通じて、行える広報活動は継続できたが、中学校、高等学校における生徒の転学時期を踏まえ、より効果的な時期を見計らう必要がある。新聞広告への掲載は通信制を希望する生徒への影響力が少ないと感じた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (事務)	①目標の設定について	施設、設備の整備。広報活動への協力。入学式、卒業式の実施。	A
	②活動の実際について	生徒数増加により、既存の右右桜キャンパスに加えて新校舎建設への準備に取り組み、年度末の着工に至った。 入学生対象の「入学者説明会」を実施した。 全日制庶務部の協力のもと、第2回入学式（マルチスタジオ）、第3回卒業式（集会室）を学園をあげて実施し、盛大に挙げてきた。 個々の生徒の単位取得数・必要な学習支援に応じて納付金を収受することが必要なため、申込書類等と照合の上、適切に事務処理を行った。また、合格書発行まで教務・情報処理と連携し遅滞なく事務処理を行った。	A
	③活動の点検について	生徒増を見越した施設増築に着手した。校舎もさることながら、備品やICT環境にも配慮して、生徒の学習環境の充実を図る。 全日制的施設を利用する場合の連携をしっかりとしなければならない。今後、運営上、さらに必要となることを検討し精査していかなければならない。 つくば研究学園方面からの生徒が増加傾向にあり、次年度に向けてつくば駅発朝1便の運航を試験的に実施する。	A